

ワケ カタチには理由がある(31)

Shape follows
Function & Taste

～ドゥラン(Delanne) / OC7



[同じくタンデム翼のプー・デ・シェルと↑]



本機は、1941年に初飛行したフランスの試作戦闘機です。1941年といえば、すでにフランスがドイツ軍に占領されていた時期で、初飛行後、ドイツに接収され、その後鉄十字のマークを付けて飛行したようです。いわゆるタンデム翼形式の機体で、実際に飛

んだ数少ない同形式の機体(他には、英国ライサンダー機の改造機と、ベストセラーホームビルト機のプー・デ・シェルぐらいしか思いつきません)。「風の谷のナウシカ」に登場する、トルメキア軍のコルベットがこの形式なので、逆説的に、コルベットもちゃんと飛ぶんだ、と技術的裏付けができる機体です。形式にあるCはフランス軍で戦闘機に与える符号のようで、戦闘機として作ったようですが、前翼をガル翼とし、射撃時の視界を確保するのは良いとしても、タンデム翼は揚力を前翼及び後翼に分散して発生させる形態で、機敏な機動を要求される戦闘機には向かない形式だと感じます。また、視界の広い後部座席はあまりに無防備なので銃手としては、あまり座りたくありませんw。

【模型について】

フランスのHI-TECH製1/72のレジキットです。大昔に「月刊スケールアビエーション」の読者投稿欄に投稿した際、編集部から「ハイテック社代表のフィリップ氏は元エレールの開発者。その風貌は『ルパン三世・死の翼アルバトロス』に出てくる博士そっくり。」とコメントをいただき、とても同メーカーに愛着がわきました。

(中川裕幸 2021年6月, 改定2023年6月)